

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 7 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070801800		
法人名	有限会社 D & Mコーポレーション		
事業所名	グループホーム いやし屋本舗		
所在地	福岡市東区土井1-25-7 ケアレジデンス青葉1F 〒813-0032 (電話) 092-691-1036		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年7月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人 常勤	6人 非常勤	6人 常勤換算 9.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	6階建ての～ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(200,000円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,200円程度	

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2			2名
要介護3	4名	要介護4			1名
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 82.5歳	最低	77歳	最高	86歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	原土井病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に位置しており、特定施設や高齢者アパート、デイサービスといくつもの施設が入っている建物の1階にあり、地域の方々が立ち寄りやすい家庭的な雰囲気が漂うグループホームである。1階出入り口の扉を開け放ち、リビングは太陽の光が降り注ぎ自然な風が心地よい。入居者は自然にリビングに集まり、開放的で和やかな雰囲気の中でゆったりと過ごしている。ホームの廊下に畳が敷かれ、木のプレートに入居者の書いた墨字で居室の表示をするなど、家庭的な雰囲気作りへの配慮が伺える。入居者一人ひとりのペースを尊重しつつ、デイサービスとの合同での体操や6階までの階段昇り等が日課として行われており健康維持に努めている入居者と家族の希望や状態を勘案して在宅復帰へ取り組むなど、在宅復帰を見据えた支援がなされている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の外部評価の結果は、ミーティングや運営推進会議で報告し、提案事項は職員全員で検討し、記録様式の工夫や地域交流が積極的に行われるなどの改善の成果が見られ、サービスの質の向上に生かす取り組みがある。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価を受けるにあたり、職員全員で自己評価に取り組み、自己評価および外部評価の改善点を理解し検討していく取り組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 家族、民生委員、老人会長、地域の医師や介護支援専門員、デイサービスの職員の参加により2ヶ月毎の運営推進会議を開催している。外部評価の結果報告やホーム行事への参加案内など、様々な意見交換などが行われている。老人会のグランドゴルフや町内の運動会、地域行事への参加などが積極的に行われ、地域交流へとつながっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 毎月の「ホームたより」や入居者の状況や行事参加の様子を写真に掲載した新聞を通じて入居者の暮らしぶりを伝え、家族の訪問時の声かけやケア記録を提示しながらの状況説明、年2回の家族会など、さまざまな機会を捉えて家族の意見の聴取が行われている。家族からの意見などについては、ミーティングの際に協議するなどの取り組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 町内の運動会や老人会のグランドゴルフ、地域文化祭への参加、他のグループホームとの合同レクリエーション、ホーム行事への地域の人々の参加や中学生の体験学習の受入れなど、地域との交流が積極的に行われている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての視点を置いた「9人9色 のくらしのサポート」の理念を掲げており、地域との交 流やアットホームで入居者一人ひとりによりそった個 別ケアの実施など柔軟な支援の取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの雰囲気こそなく、壁に墨書きされ た理念が掲示されており、自然に目に入る工夫があ る。月1回のミーティングや日々のケアのかかわり を通して理念に基づいた具体的ケアの内容について職 員間で話し合うなど、理念の浸透を図る取組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内の運動会や老人会のグランドゴルフ、地域文化 祭への参加、中学生の体験学習の受け入れなど、地 域との交流へ積極的に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	職員全員で自己評価を行い、検討する取組みがあ る。前回の評価結果は、運営推進会議での説明や ミーティングにて報告を行い、記録様式の工夫や地域 住民との交流が積極的に取り組まれるなどの改善が みられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、町内会長、老人会長、地域の医師や介護支援専門員、同法人のデイサービス長の職員の参加により2ヵ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議で地域交流について提案を行い、老人会のグランドゴルフや地域文化祭へ参加するなどの取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会のケースワーカー職員のホームへの訪問を通じて入居者とのかかわりがみられる。また、運営推進会議議事録の提出を通じて行政との連携を図る取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおり、関係機関や担当者との連携協力が見られる。今後、家族に対しては、家族会でリーガルサポート職員の方による制度について説明、情報提供を行う予定である。ホーム職員の制度に対する理解を図る取組みはこれからである。		勉強会などを通じて職員への制度についての理解を深めるよう努めてほしい。また、継続して家族への積極的、かつ、繰返しの制度の説明を行ってほしい。
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時の声かけやケース記録を提示しての説明報告がある。毎月の「ホーム便り」、写真を掲載した家族向けの新聞、家族会時での説明などを通じて日常の状況や外出、行事の参加の様子などを報告している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の説明やその都度の電話での連絡、毎月のホームたよりや、写真を掲載した家族向けの新聞、家族会などを通じて家族の意見や希望の表出への対応につとめている。連絡ノートに記載し、ミーティング時にも話し合うなど、運営に反映させている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常のかかわりの中で他ホームの職員との交流があり、新しい職員へ入居者の方から声かけするなど、自然な形で入居者と職員との関係が作り出されている。新しく職員が入って1ヶ月程度は、日中のみ勤務とし、少しずつ馴染みの関係を築くような工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は、何ら行われていない。絵を描くことを得意とする職員へ入居者に似顔絵などを描いてもらうなど、職員の特長を生かす工夫がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで日常のケアを通しての言葉遣いなど気づきがあれば、管理者から人権尊重について説明し、職員への人権意識を喚起している。人権問題などに関する勉強会や研修への参加などの取組みは、これからである。		人権尊重などに対する研修や行政などで行われる講話への参加を始め、さまざまな機会を利用して人権教育や啓発へ取組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や事業者協議会主催の研修案内の提示などにより、外部研修へ参加する機会の確保と研修参加の実績がある。外部研修参加後は、報告会と報告書の閲覧による周知を行なうなど、知識の共有につとめている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月 他のグループホームと合同レクを行っている。数ヶ所の事業所と合同運動会を行う予定がある。他のホームへの見学学習や他事業所との交流を通じて情報交換を行うなど、質の向上に向けた取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に昼間だけの体験入所や併設のデイサービス利用者が、ショートステイとして利用するなど、徐々に馴染んでもらうための工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	背中の洗い方、洗濯物のたたみ方や干し方、お茶を出すタイミングなどを入居者から職員が教わったり、様々なことを日常のかかわりを通じて入居者から学び支え合う関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族との会話などから入居者一人ひとりの思いや希望の把握がなされている。アセスメントにセンター方式の活用に取り組み始めたばかりであり、入居者の希望や意向、家族の意向などの把握、職員間での情報の共有への取り組みはこれからである。		現在 取組まれ始めているセンター方式を活用し、入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握につとめてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望や意向などを担当職員がアセスメント表にて把握し、課題や支援していく具体的な目標、対応内容などをミーティングにて協議し、介護計画に反映させるなどの取り組みがある。		入居者本意の視点に立ち、入居者の思いや暮らし方、出来る事を支え、入居者本人の持つ能力を引き出す視点での介護計画の作成となるよう期待したい。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月1回のミーティングでプランの内容について検討、 評価を行っている。その都度の状態変化に合わせて の評価と見直し、再作成が行われている。また、6ヶ 月に1度 入居者、家族の意向や希望の確認を行 い、プランの見直しや再作成を行うなどの取組みがあ る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	ホームかかりつけ医及び入居者のかかりつけ医と の連携や通院介助、送迎、外泊の際の自宅への送迎 など柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医による2週間に1回の往診がある。入居 以前からのかかりつけ医への受診については、ホー ム側で対応する支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況の変化に応じて医師、家族、管理者 などを交えて今後の方針について協議を行う対応が ある。		できるだけ早い時期から話し合いの機会を作り、家 族や関係者全体の方針の統一を図り、内容を文章 化して職員間で共有するなどホームとしての体制作 りに取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせたゆっくりと丁寧な声かけや 入居者に対して謝意を表すなど、入居者一人ひとりを 尊重した対応が見られ、和やかな雰囲気であった。介 護記録などの取扱いは、一元的に管理され個人情報 に配慮した対応がみられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムや意欲を尊重して食 事にかかる時間や取り方、食後の過ごし方、入居者 の排泄に対する訴えなど、日常生活のあらゆる面 において入居者のペースを尊重した対応がみられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	入居者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食 事をとり、和やかな雰囲気ですべての工夫が見られ た。入居者が食事のつぎ分け、台拭きや下膳、後片 付けなど一連の流れのなかで役割分担ができてお り、職員は役割を尊重した上での対応がみられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	毎日の入浴が可能であり、入浴するタイミングやか かる時間など入居者の希望を確認するなど、入居者 の希望や習慣に沿った支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	洗濯物干しやたたみ、食事の準備や後片付け、お 絞りに作り、園芸など、入居者のできることや得意なこと、 その時々々の状況を把握した上で入居者にあった 楽しみや役割を見つけての柔軟な支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩や買物、入居者の希望によるその都 度の外出、毎月の計画立てた外出やドーム見学な ど、積極的に戸外に外出する柔軟な支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。入居者の状態の把握 により外出傾向を察知し、入居者の様子を良く観察し た上でさりげない声かけや見守りが行われている。散 歩に付き添ったり玄関先でのティータイムなどその 時々に応じた対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署と入居者を交えた避難訓練を実施 し、避難経路の確認や消火器の使い方などの指導が 行われている。運営推進会議や日々のかかわりを通 して、町内会長の見守り協力が得られるなど、働きか けがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、定期的に管理栄養士 からアドバイスを受けている。水分摂取時の声かけや ゼリー等で補水につとめるなど、水分不足にならない ような工夫がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルに季節の花が飾られ、居室の入 り口には、入居者による墨字の名札が掛けられるな ど、心和む空間づくりへの工夫がある。リビングは南 東向きで日当たりが良く、ホーム内を流れる自然の風 が心地よく、入居者がゆっくりと過ごしている光景が見 られた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や位牌、写真、ソファー、テレビなどの 入居者にとっての思い出の物や馴染みのものが持ち 込まれており、安心して居心地良く過ごすための居室 作りの工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号